



塚本 裕三
公明党
(30分)

市長選挙の結果は

問 市長選挙の投票率および投票結果について市長の受け止めは。

答 選挙では私の思い描く福山の未来像について訴えてきたが、投票率が36・06%、得票率は52・85%であり、必ずしも全ての人の私の思いが伝わったとは言えない



門田 雅彦
公明党
(30分)

中心市街地の活性化と都市の魅力向上への考え方は

問 11ヘクタールに及ぶ福山駅南地域は、国に都市再生緊急整備地域として指定されてから12年が経過しているが、再開発の考え方は。

答 福山駅前広場に面した伏見町や旧キャスパは、中心市街地活

結果であった。

私は、投票行動に結びつかなかった有権者の64%弱に相当する市民の皆さま方の思いも含め、多くの市民の皆さまの思いをしつかりとくみ取り、これからの市政運営に当たっては、現場主義に徹し多くの市民の皆さまの声に耳を傾け、その声を行政の施策に反映していく。



性化の軸として位置付けており、回遊性の向上やにぎわいの創出を図るためには、早急に再生が必要であると認識している。

また、大規模な商業施設にとらわれることなく、幅広い世代の「みずみずしい感性」や「さまざまな発想」が集まり、まちづくりに関わる仕掛けをつくることが重要と考えている。

都市の「顔」としての、まちづくりの仕組みを、国や県、大学、専門家、金融機関等と連携して構築していく。



中安加代子
公明党
(30分)

福山版[※]ネウボラは

問 ①産前・産後サポート事業のニーズ調査の分析結果は。

②現在検討している支援事業は。

答 ①産前・産後に不安や負担を感じた産婦は73・3%で、その内容は上の子との育児の両立、授乳のトラブル等であった。



生田 政代
公明党
(25分)

病児保育の現状は

問 病児保育は、市内に居住する0歳から小学6年生までの児童が病気または、病気の回復期で集団保育が困難な期間、医療機関に付設された専用施設で保育し、子育てと就労の両立を支援することを目的として、現在4医療機関で実施されている

また、産後に受けたいサービスは、訪問による育児や授乳の相談母親同士が会って話せる場の提供一時預かり、日帰りサービス、ヘルパー派遣による家事援助、宿泊サービスとなっている。

②産科医療機関や助産師等による産後ケア事業、ヘルパーによる家事支援などの事業を予定している
③6市2町の中では、医療機関などを互いに利用し合う場合が多いため、統一的な事業展開を検討している。

が、病児保育の現状と課題は。

答 現在定員は、3施設は6人1施設は4人。利用者数は年々増加しており、さらなる定員の拡充が必要である。医療機関での実施が進まない理由は、小児科医の不足に加え、本事業に従事する看護師や保育士の確保が困難であることが挙げられるが、本年4月から職員の配置要件が緩和されたことにより、定員の拡充に期待している。市外の居住者の利用は、施設の利用状況を勘案する中で受け入れられている。

※ネウボラ：フィンランド語で「助言の場」を意味し、フィンランドの子育て支援制度や施設を指す。日本版では、妊娠から出産、育児の切れ目のない相談支援のシステムのこと。